

乞食を装ふ男 實は前科七犯の賊

安積郡多田野村大字本郷田一番 窃盜前科四犯熊澤金三(四三)は地當時住所不定無職窃盜前科七 大正十五年二月水戸刑務所を出犯石川音藏(五一)は大正十五年獄後内郷村大字御厩に居住し十一月福島刑務所支所を出獄の妻鈴木八重(六〇)と同居した後福島、郡山兩市及び信夫夫婦共謀で内郷村大字御厩境菅安達、伊達各郡を轉々し乞食の原定降方から去る二十三日夜六時を装つて窃盜を働いてゐた工道具五十圓を窃取した事發覺が、二十九日平町字六丁目木賃平署で取調べた處、窃盜十數件宿四國屋へ投宿するふりをしてを自白した。

寝てゐる間に 髻を切らる

門傳さん失敗の巻 髻が立派なもので有名であつた門傳辯士さんの、その髻が最近非常に短くなつて今迄のやうに指先で捻れなくなつたといふ話。成程見ると今迄の八字髻がふつりと切られてポチャツとしたモダン式。どうしたわけだらうと調べて見ると面白い事が判つた。先達で法曹界のある宴會で酒の好きな門傳さんが酔ひつゝふれ座敷の隅になつて寝て居た。門傳さんの顔を見てゐる間に遠藤豫審判事が缺を以て髻を切つたとは知らない門傳さん。何かおかしいんだといつもの癖で髻を捻らうとした處肝腎のそれが無い、あつた驚いたが、なかにすぐ延びたよ。と慰められそのまゝになつたとの話である。

夫婦共謀で 窃盜を働く


山形縣東置賜郡金山村大字田中

映畫界

町八天下 呂宋助左衛門は日本一の長者魚屋に生れながら亂心者と見なされて髪を絶たれ佛名を順と呼んだが野郎の頭花の高須に遊君久方と愛つた。西國浪人今井小左衛門は久方の戀に容れられず順圓を久方より引離すべく種々の手段を以て順圓に迫つたが剛膽な彼順圓は應ずべくもなく反つて小左衛門を辱かした。師僧恭順は順圓の破戒を責めて懺悔をすゝめたが佛門にありては欲せざる順圓は釋迦達摩大師の像を持ち出し反つて師僧を説破した。順圓の生家魚屋より小左衛門が三百兩強請中との知らせを受けた順圓は直ちに駆け付け小左衛門を殺し魚屋一家へ久方に別れを告げて海上呂宋へと走り土人を説き伏せて我意に従はせ珍器什寶を持ち歸つた。順圓は名を魚屋助左衛門と改め石田三成の推舉により太閤殿下を自邸に招き珍器を獻じた。流石の太閤もその飾り物に驚き助左衛門の犬膽を賞めた。助左衛門の得意思ふべしである。


得意の助左衛門は石田三成が權勢を登に愛妻久方を奪はんとするに及び狭い島國に太閤と石田の支配下に快とせす外橋二十三大名を掌中のものとなし再度呂宋に渡り自由の天地開拓を志したが出發の前夜藤正の爲めに密計は見破られた。一世の豪商魚屋助左衛門も壯舉中ばにして空しく死を賜ふた。(平館)

共ト存共△ 融金ノ易簡△ 蓄貯ノ味趣△ 堅ト意誠△



内 縣△ リア所振取=所時何△ 一サ下込申モデ時絶△ スワリ業ヲ會エズ△

スタイ好 形 中 手 な 着尺モスリン 本場蚊帳



龜田屋 電五七

印刷物は 加納活版所

うなぎについて

御客様へ謹告

弊店で鰻料理に使用する鰻は本場焼津産以外に絶対用ひてゐませんが近頃同業者の某氏は、弊店の鰻は平地方産のものゝ如く宣傳してゐる由であります。それは惡宣傳に過ぎず弊店の鰻は真正銘焼津産の優良なるものに相違ありませんから御客様各位は之等惡宣傳に迷はされず相變らず御最負御引立の程懇願致します。平町南町平館隣(電話四二四番)

燒津鰻魚榮

社會奉仕

百毒下し 一、六萬金膏 半額
回効散 一、六神丸 半額
猫イラズ 一、字津救命丸 三割引
太田胃散 一、君ケケ代 三割引
ヨチユムチンキ

貧困者無料

平町田中 宇佐美藥局

外科専門

目科療診 花内外 柳臟科 病外一科科般

▲診療時間(午前八時より午後九時まで) 但し急患は此の限にあらす

平町田中大通り(電話四三六番)

入院隨意

安齋外科醫院

授教

裁縫 與田式及び水引細工
華道 古遠州生花、小原流盛花
茶の湯 裏千家

平町白銀町(平劇場前)
高橋光春
電話 六三八番

外科新設

外科専門 部長 藤本 順
婦人科 院長 木村寅次郎
從前通り診療

平町新川町
木村醫院
電話 一六四番

スポンジ

美味にして 強壯の効 著大



ニピロクモヘンホツス 三價定 酒ンホツス 二價定

店理代 角百丁五町平 局藥邊野山

汽車即座脂油

殺菌防臭の効絶大なり

優良なる

代理店 關内藥局
平町四丁目(電話四〇番)